

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-310	13-035	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The synergistic effect of exposure to alcohol, tobacco smoke and other risk factors for age-related macular degeneration. 加齢黄斑変性の飲酒、タバコやほかのリスク因子への曝露の相乗効果</p>		
執筆者		
La Torre G, Pacella E, Saulle R, Giraldi G, Pacella F, Lenzi T, Mastrangelo O, Mirra F, Aloe G, Turchetti P, Brillante C, De Paolis G, Boccia A, Giustolisi R.		
掲載誌		
Eur J Epidemiol. 2013 May;28(5):445-6. doi: 10.1007/s10654-013-9798-7.		
キーワード		PMID
加齢黄斑変性、飲酒、喫煙、相乗的相互作用 (相乗効果)		23543124
要 旨		
<p>背景・目的： 加齢黄斑変性(以下 AMD)は、先進国の 50 歳以上の人々の視力低下の重大な要因である。喫煙、高血圧、炎症や飲酒が AMD に関連していることが明らかになりつつあるが、全ての研究で示されているわけではない。今回の研究では AMD 進展リスクにおける飲酒および喫煙の他の危険因子との相乗効果を評価することを目的とした。</p>		
<p>方法： 2011 年 8～11 月に書面でのインフォームド・コンセントを得てローマ Sapienza 大学教育病院において AMD 群 122 名と AMD と関連しない眼科疾患受診者、性年齢を調整した対照群 124 名を登録した。調査対象者から年齢・性・職業・教育水準などの基本情報や既往歴 (AMD や循環器疾患、高血圧、高コレステロール血症、糖尿病、緑内障手術等)、喫煙状況、飲酒状況、食事状況を含む 5 項目 35 問の質問票の記載を得た。</p>		
<p>結果： 飲酒量に群間差はなかった (2.4g/日)。症例群では 75 名 (61.5%) が、対照群では 52 名 (41.9%) が喫煙経験者であった。各変数のうち AMD 家族歴、喫煙のオッズ比がそれぞれ 4.49 (95% 信頼区間 (以下 CI) 1.45-13.8)、2.20 (CI 1.32-3.68) と高かった。飲酒は 0.97 (CI 0.58-1.62) であった。また、2 変数の相乗的な相互作用 (相乗効果) は、AMD 家族歴と喫煙経験で 1.51 (CI 0.11-20.69)、高コレステロール血症と喫煙経験で 1.77 (CI 0.44-7.10)、高コレステロール血症と飲酒で 1.64 (CI 0->999) であった。</p>		
<p>結論： 我々の研究結果から多くの危険因子が AMD の進展に関連しており、それらのうちいくつかは上記のように相乗的な相互作用を有し、循環器疾患の危険因子をコントロールすることで初期 AMD の有病率をも減少させることができるということが分かった。</p>		